

鳥取神青通信

第5号

発行元 鳥取県神道青年会
編集 中部青年神職会

就任挨拶

鳥取県神道青年会会長

青砥 一彦



この度の役員改選にあたり、その任に能わずと重々承知乍ら、会長の職を仰せつかることとなりました。元より非才の身、その重責に耐え得るかどうか些か心許ない限りではありますが、先輩諸賢並びに会員各位のご助力・ご鞭撻の下、この任を全うする所存でありますので宜敷お願い致します。

さて、ご承知の通り神道青年全国協議会は創立五十年を迎え、平成十一年四月の記念式典をはじめ、「五十年史」の刊行、組織の改革など諸事業が予定されています。また中国地区氏青

挨拶

青年神職へ寄す

鳥取県神社庁長

米原 尊昭

今こそ、その力に賭けて、共に邁進したく存じます。

私今回、計らずも鳥取県神社庁長の要職を受けて立つこととなりました。皆様方のご協力の上に立って、何とか責任を全う致したいと思っております。

さて、何と申しても将来の神社を背負って立つのは、青年神職諸士であります。我々の年代は、戦後の神社をいかにして、護持するかという点が重要課題でありました。常々申し上げることですが、現在の神社界は安定しているようにみえますが、

数々不安材料を抱えています。農山村の過疎という点も有りますが、神職家の断絶を心配しています。

特に青年神職では、顔を出す人と出さない人との差が感じられます。地域によって伝統を異にする点が多く、学校で資格を取得しただけでは不十分です。

会あるいは諸祭事には、成るべく参加されることをお願いいたします。若い時は不十分な点があっても、人は理解しますが、他の兼職を定年退職してからは、年令が高くなっていますから、なすべきことが不十分であると、自然足が遠のきます。

私はお陰様で、今の年令を迎えさせて頂きましたが、後継者という点で、気にかかるところです。現在身分昇級には研修歴が必要ですが、祭式一つ取り上げても、場数を踏んでおかないと、中央に出ると苦労します。

神職専務の方は別として、

兼職をなさっている方でも、何とかやり繰りなさって、参加の機会を捕らえて頂くことを、「百聞は一見にしかず」とのことわざを思い浮かべながら、切々お願いしてご挨拶と致します。

県役員紹介

- 会長 青砥 一彦(西)
- 副会長 霧林 敦(東)
- 井上 智史(中)
- 塚田 義史(西)
- 安江 昌史(西)
- 宇田川和人(東)
- 岡村 吉彦(東)
- 横山 景昭(東)
- 池田 宏一(中)
- 船越 芳昭(中)
- 御船 斎紀(中)
- 木山 典明(西)
- 中嶋 盛浩(西)
- 遠藤 隆(西)
- 戸板 重則(東)
- 藤堂 裕史(中)



新しい青年神職のあり方を求めて

鳥取県神道青年会交流会

平成九年五月二十五日、鳥取県神社庁で鳥取県神道青年会交流研修会が開催された。

「地域社会と神社」という研修主題のもと、この研修会の意義も含め、鳥取県神道青年会、松田直也会長が以下の基調提案を行った。

(一) 基調提案(要旨)

① 時代認識

オウム真理教事件や、いじめ問題、神戸児童殺害事件など、物が豊かになった反面、精神的な貧困がわが国全体を覆っている。今こそ日本人の健全な精神生活の復興が求められている。

② 青年神職の責務

その意味で次代を担う青年神職が社会に果たすべき役割と責任は大きい。若年神職は斯界への意識を高め、研鑽を積むことが必要。

③ 若年神職の意識

本県若年神職の神職としての意識は高いとは言えない。例えばアンケートを実施しても三十%の回答しか得られない実状。意識の昂揚を図らねばならない。

④ 今こそ実力を蓄えるとき

今のうち研鑽を積み、その成果を以て神社界へ提言を重ねれば必ず魅力ある神社界は実現する。その一歩をこの研修から始めよう。

(二) 分科会報告

以上の基調提案を受け、十八名の参加者が二分科会に分かれ討論会を行った。
Aグループ

「子供会・PTA等と神社」

① 神社離れの原因

- ・ 産業構造の変化で人が地域に根ざさなくなった。
- ・ 家庭内の話し合いの減少。文化や風習が親から子へ伝



わらなくなった。

② 人々を神社へ呼び戻す方策(現在の実践から)

- ・ 「長男会」などの青年会で行事を組織し、青年の関心を地域へ向けさせる。
- ・ 総代との家族的付き合い
- ・ 家庭祭事の際、氏子とじっくり語る。

- ・ 社頭講話がきちんとでき、玉串礼作法を教え、氏子の素朴な疑問に答えられる神職になる
- * (P4の最下段へ続く)

平成8年度決算及び9年度予算書

収入の部

科目	9年度予算額	8年度決算額
会費	102,000円	102,000円
助成金	210,000円	200,000円
寄贈金	120円	50,204円
繰越金	62,880円	82,189円
収入合計	375,000円	434,393円

支出の部

科目	9年度予算額	8年度決算額
総会費	30,000円	30,000円
役員会費	20,000円	17,905円
事業費	46,000円	50,944円
対外派遣助成	140,000円	150,000円
事務費	25,000円	14,848円
神青協負担金	54,000円	57,000円
地区負担金	30,000円	30,000円
特別積立金	10,000円	10,000円
予備費	20,000円	10,816円
支出合計	375,000円	371,513円

事業

- 一、神道青年としての意識の高揚と自己研修の実践に努める。
 - 一、単位の相互の交流を進める。
 - 一、神青協活動方針事業計画に基づき活動を進める。
- 重点目標
- 一、神道青年としての意識の高揚と自己研修の実践に努める。

事業

 - 一、神青通信第五号の発行
 - 一、組織強化に向けて単体会活動の活性化と拡充
 - 一、神青協・中国地区研修会への派遣

平成九年度 鳥取県神道青年会事業計画

東・中・西単位の取り組み

よじよき研修をめぐって

東部若輩会

東部若輩会は、この夏の総会に選出された新役員による新体制となり、これまで培われた会風を継承しつつ、新しい視野での活動へ前向きに考え、実践していくと考えています。

現在の若輩会の主な研修会は、夏季研修会と卓上研修会の二つがあります。夏季研修会につきましては、日程を二日間とし、充実した内容のもと、寝食を共にし、会員同士の交流を進める意義深い研修ですし、また、卓上研修会も毎会ごとに様々な議題を掲げ、青年神職の思考の良き機会となっておりますが、新しい研修の取り組みとして、個々の会員が主体になるような小規模の研修の場を設けたり、グループ単位で年間を通し研

究をし、夏季・卓上研修会等に生かし、益々充実した研修会ができればと願っています。
(霧林 敦)

家族ぐるみの交流

西部青年神職会

西部青年神職会の特色ある活動として、年一回の日帰りバスハイク「史跡めぐり」がありました。この近年参加者の確保が困難になり、止むなく中止せざるをえなくなる年もありました。こうした状況をなんとかしなければ今後の青神交流会活動が無くなってしまう恐れもあることから、今年度の役員会での、交流会の話し合いで、「家族ぐるみで交流」をテーマに参加しやすいこと、又実行出来ること、という事で、去る九月二十一日に実施いたしました。

当日午前中、白尾神社に

集合し、正式参拝、遠藤政人宮司様より講話をしていただいた後、バーベキューで昼食会、それまでは、やはりお母さん方、子供達は始めて顔を合わすわけですから、なかなかなじめない様子でしたが、次第に和やかにになり、それぞれに話が出来る様になっていました。そんな中、早くも来年の交流会の計画も噂されているようでした。

午後になり、釣大会という事で遠藤宮司様の案内で、ゴズ釣りをしました。子供達は、男の子、女の子とわす、皆楽しんでいました。ついでに親の方も楽しんでもらいました。次第に子供達にも変化が現れてきました。年上の子供が年下の子供の面倒を見る様になっていました。又、子供同志で遊んでいる姿も見られる様になっていました。

この様子を見ていて、今年は、とりあえずこの交流会は成功したなと思えましたが、来年以降このような家族ぐるみで出来る様にするには、まだまだ課題が残されている様に思います。

これから先の交流会について、今から考えておかなければ、また今迄のくりかえしになりますので、役員はもとより、会員皆様の御協力と御支援をお願いしたいと思えます。(塚田義史)

舞楽奉納

中部青年神職会

私たち中部青年神職会では、例年「日の丸パレード」「建国祭々典奉仕」また、「鎮霊神社秋季大祭奉仕」等種々の事業を実施しておりますが、このたびは、「鎮霊神社秋季大祭奉仕」に際し青神会員により舞楽(「剣の舞」船上神社権禰宜池田宏一「幣の舞」天乃神奈斐神社権禰宜 藤堂裕史)を奉納させて頂いたことを報告

させて頂きます。

例年鎮霊神社秋季大祭の祭典に祭員としてご奉仕させて頂くことは、私たち中部青年会員にとつての祭式の道場となっていると言っても過言ではないほど、例年の重要事業となっておりませんが、昨年は特別に、着伯七座の舞楽のうち二座を奉納させて頂くことができました。

このことは、今後、私たちが舞楽を習得して行く大きな励みになったといえます。例えば、舞楽や特殊神事などの、先達の方々が守り伝えてこられた数々の伝統の一端を私たち若い世代が受け継ぎ、手長の如く次世代へ絶えることなく引継いで行くということは、私たち中部青神会の重要な事業のひとつといえると思えます。
(池田宏一)



新入会員紹介

氏名 入江 雅彦

(いりえ まさひこ)

住所 西伯郡名和町倉谷六二六
奉務神社

武郷神社
寶宮神社



私が武郷神社・寶宮神社の宮司に就任しまして、早二年目を迎え様としています。神職としては、三年目でありますが、まだまだ失敗ばかりして、助勤先の宮司様方に、御迷惑をお掛けしております。

これからも、皆様の御指導御鞭撻を仰ぎながら、一生懸命頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しく御願致します。

事務局だより

県神道青年会は継続事業と致しまして、鎮物を始め、今年度より新たに『まごころ風鎮』を斡旋致しております。その他、神道青年全国協議会の頒布物品も多数ございますので、各単位会までお問い合わせ下さい。

この頒布事業は県神道青年会の運営資金の重要な位置を占めておりますので、会員諸兄の御支援・御協力賜りますよう、切に願います。次第であります。

申し込み問い合わせは、
東部/岩美郡福部村海士
横山景昭
中部/東伯郡北条町国坂
御船齋紀
西部/境港市上道町

遠藤隆
猶、「祭典時にこんな物があれば便利なのに」と思われる物品のアイデアや、事業運営に関する御意見等も併せお寄せ下さい。

飛天みこし

賀茂神社(倉吉市)

十年ほど前、女性も祭礼に参加してもらおうと、氏子青年会のメンバーが、女性だけで担ぐ神輿を作りました。

初めは、簡単な作りの神輿をと思っておりましたが、



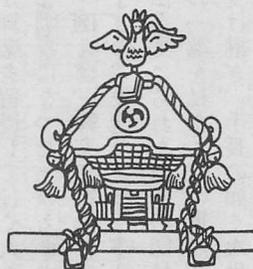
計画を進めて行くうち、いつその事、本物の神輿を作ってしまうと、三ヶ月かかって、本物ソックリ、いや本物の神輿を作っていました。



来ますが、又羽衣を着て天に帰って行きます。残された二人の子供は、近くの山に登り、母が好きだった音楽(笛鼓)をならして母を恋慕ったそうです。それで、その山を打吹山と呼ぶようになりまして、天女が

昇っていった、「夕顔の井戸」というのが、賀茂神社境内にある事から、女性神輿の名を「飛天神輿」とつけました。

それ以来、元氣な女性の声で、倉吉の空に轟くようになりました。



←*(P2より続き)
Bグループ

「学校、公民館との連帯性」
・敬神婦人会など組織しても、他の会合と重なったり、他の役職があつたりで、会員が出席しづらい環境があり、結局活動が低調となる。
・巫女は中学生に依頼するが人気がある。若者ヘアピールするいいチャンスであると考えている。